

2025（令和7）年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1490800404	事業の開始年月日	平成29年12月1日
		指定年月日	平成29年12月1日
法人名	株式会社ソラスト		
事業所名	グループホームソラスト富岡		
所在地	( 236-0052 ) 神奈川県横浜市金沢区富岡西6-43-31		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	9名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	令和7年12月26日	評価結果 市町村受理日	令和8年4月30日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当ホームは外出活動を中心に行っております。日常のお散歩、ドライブ、地域包括支援センターの催し物見物、地域のお祭りに参加等実施しております。  
音楽レクにも力を入れており、週2回音楽療法士さんによる音楽リハビリテーションを実施しております。  
月に1～2回はお弁当の日を設け、入居者様が大好きなお寿司等を召し上がって頂いております。  
医療との連携も的確に行い、日々の入居者様の体調管理情報の共有、また入居者様の急変等に迅速に対応しております。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和8年1月28日	評価機関 評価決定日	令和8年4月2日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

京浜急行「京急富岡」駅から徒歩15分の道路沿いに位置しています。建物は耐震性の高いツーバイフォー工法の2階建てです。周辺には住宅や商店、クリニック、公園が隣接し、地域環境に適合した立地条件を備えています。

<優れている点>

外出活動を多く取り入れ、日光浴や気分転換、筋力低下の防止に役立てることで利用者の心身の健康維持を体現しており、一人ひとりの生き活きとした表情を引き出す場を築いています。週2回実施する音楽療法士による歌レクリエーションでは、気分の乗らない様子を見せる人も音楽が始まると共に歌い出すなどの変化を引き出し、リビング全体に一体感のある明るい空間を創り出しています。全介助を必要とする人に対しても「1日1回は便座に座る」という離床支援を継続し、排泄の自立や生活リズムの確立を意図的に整えています。日々の関わりの中で利用者の喜怒哀楽を細やかに観察し、個々の思いに寄り添い、常に利用者へのサービスに努めています。

<工夫点>

食事は2社の配食業者からメニューを選択して発注し、献立の多様性を確保しています。青魚などの苦手な食材を避けるなど、個別の嗜好に配慮した提供を行っています。月2回は利用者の好みに合わせたちらし寿司を外で購入し、「お弁当の日」として生活の楽しみを創り出しています。また、毎月「ご様子」と題した個別の報告書を家族へ郵送しています。本人の写真とともに1ヶ月の生活状況を詳細に記述して届けることで、家族の安心と信頼につなげています。個人情報保護を重視し、書面による報告方法を採用しています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームソラスト富岡
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価項目	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	安全安全で、その方らしさを大切にしながら生活ができるホーム運営を心掛けている。また、外出にも力を入れ、天気の良い日はホームの外に出て活動することにも努めている。それにより生活の質の向上を目指している。	理念は前法人において職員全員で話し合い作成したものを、現在も継続して活用しています。「その人らしさの尊重」や「外へ出ていこう」という活動的で具体的な方針を掲げており、新入職員を含む全職員へ明確に共有しています。玄関に掲示して常に意識を高める環境を整え、日々の支援の実践に反映させています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内の音楽療法士さんの音楽レクを月に8回以上行っている。また日常的な散歩や買い物で地域住民と交流を図ったり、地域の催し物やイベント、会合に積極的に参加しながら地域と関わりを持つよう努めている。	開設以来、10年以上にわたり地域との関係づくりに努めています。商店とは開設当初からの馴染みの関係を築いており、八百屋やパン屋へ週2回は買い物に出かけることで、地域での暮らしを継続しています。地域ケアプラザで開催される月1回の音楽会には徒歩で参加し、町内の秋祭りへの参加も継続しています。これら地域行事や日常的な外出を通じ、地域社会の一員としての豊かな生活の場を築いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議等で認知症の方のケア方法や虐待、事故対策また防止策の情報交換を行い、提供している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ホームでの事故対策や身体拘束適正化、虐待防止の委員会も同時に行い、話し合いをしながら外部の方の意見や地域からの情報を取り入れ、参考にし、より良い運営や、日々の入居者様のケアの向上に繋げている。	事業所内の事案や悩みを率直に相談する場として運営推進会議を機能させています。訪問看護師や地域ケアプラザ職員、民生委員、歯科医師などをメンバーとし、年6回開催しています。行事報告やヒヤリハット事例など2ヶ月間の多岐にわたる状況を報告し、活発な意見交換を通じて得た専門的な視点を次の改善に反映させています。ありのままの事業所の姿を詳細な議事録にまとめ、全職員で共有することで支援の質の向上につなげています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	金沢区内に留まらず、各区の生活支援課のSWさんからの空室の問い合わせや入居相談を積極的に受ける事により、協力関係を築き、入居を希望される生保の方等の入居を迅速に行えるよう努めている。	利用者の行政手続などは家族に依頼しており、事業所は必要に応じて連携を図っています。生活保護利用者については区生活支援課と日常的に連携し、電話連絡や定期的な訪問を通じて状況を共有しています。生活保護利用者の受け入れ先が限定的な状況において、他区からの空き室照会にも応じるなど、地域のニーズに合わせた柔軟な対応を継続しています。	

自己評価	外部評価項目	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束をしないケアに取り組んでいる。	年に1回以上は身体拘束に関する研修を行っている。また運営推進会議の場において身体拘束適正化委員会を開催しており、それらに参加出来なかったスタッフは議事録等で共有を図っている。また、オンライン研修のシステムがあり、個人で自分の好きな時間に身体拘束に関する研修を受講することが出来る。	身体拘束ゼロの理念を掲げ、適正化に努めています。運営推進会議において身体拘束適正化委員会を同時開催し、判断の難しい事例についても、身体拘束の該当性や他にどのような対応ができるのかなどをメンバー間で検討しています。また、常に意識を高めるため定期的に内部研修を実施し、身体拘束を行わないケアの実践につなげています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止に関する研修は年3回以上設けている。うち2回は事例検討でレポートを提出してもらい、1回は座学研修を行っている。また運営推進会議でも虐待防止委員会を開催している。それらの内容は議事録で共有を図っている。それらを通じ虐待防止の意識を常に持ってケアに取り組むよう心掛けている。	運営推進会議において、虐待防止委員会を身体拘束適正化委員会と同時に開催しています。スタッフミーティング時の内部研修や法人のオンラインシステムを活用した研修を実施しています。研修では実際の事例を取り上げ、状況や心理的な分析を行うことで、アンガーマネジメントの習得や実践につなげています。個々の事例の振り返りを通じ、職員の意識や知識の向上を支援の質の改善に活かしています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	年に一度で有るが、尊厳とプライバシー保護の取り組みの中で学ぶ機会を設けている。しかし法的な内容に関しては、必要性を理解しても、スタッフがそれを現場で実感する機会が殆どないことが現状。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関する内容については、その量が多い為、契約時にその説明をするのではなく、事前の契約に関する書類一式を事前にご家族等に送付し、内容をご確認して頂くようにしている。疑問点の質問等も契約日以前に受けるように努め、不明な点がない状態で契約日に向けて出来るよう心掛けている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	当ホームでは家族会が無い為、入居者様ごとに報告書を作成し、その月の状態などを書面にてお知らせしている。その中で要望があれば電話等で受付し、可能な物であればケア等に盛り込んだり、また何か有ればこちらから迅速にお伝えするよう心掛けている。	月1回、利用者一人ひとりの1ヶ月の状況を写真入りの書面にして家族へ郵送しています。日々の様子を丁寧に伝えることで家族の安心を支え、事業所への信頼関係を築いています。意見や要望などの相談には電話等で丁寧に対応しています。また、日々の対話や観察を通じて利用者の思いを汲み取り、日々の暮らしや支援に反映させています。	

自己評価	外部評価項目	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	本部との面談や定期的なミーティングやアンケートにて意見を伝える場を設けており、改善に努めている様子。ただそれらの意見をどこまで反映させているかは不明な点が多い。	職員一人ひとりの声を受け止め、働きやすい環境を整えることを大切にしています。年1回の法人面談に加え、管理者との面談を年4回ほど実施し、対話の機会を確保しています。定期的なケア会議でも職員からの率直な意見を収集し、可能なものはその都度改善に反映させています。研修時間の確保や休憩室の設置など、検討を要する課題についても、改善に向けた検討を継続しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	給与水準に関しては、定期的な昇給を実施しているのに伴い、月間のスタッフのオペレーション時間の法定時間内での短縮化が顕著になっておりケアの充実具合が軽視されてしまう傾向にある。就業環境においては一長一短の印象。	職員が働きやすい環境づくりを大切にしており、事業所開設当初から継続して勤務する職員が数名在籍しています。希望休については制限なく取得できる体制を整え、職員の意向を優先した柔軟なシフト作成を行っています。管理者は個々の主体性を尊重し、現場の自主的な判断に任せる運営方針をとることで、職員が自律的に業務に取り組めるようにしています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内研修の受講を職員が取り組みやすいようオンライン上で積極的に提供、実施している。項目が多い為各スタッフが取り組める時間に自由に取り組めるのが利点。またスタッフ会議の時間にスタッフが講師となりフィードバック研修を行う機会も設けている。	ケアの質の向上のため、毎月の内部研修や法人のオンラインシステムを活用した研修を実施しています。多岐にわたる項目を備え、介護に関する幅広い知識の習得を支援しています。内部研修では職員が講師を務める機会を設け、教える側を経験することで知識を自身に定着させる良い機会としています。資料作成などの業務負担については、軽減に向けた工夫を今後の課題としています。	既存の業務マニュアルを現状に即した内容へと更新するため、まずは年1回の定期的な見直し手順を検討し、確認記録を残すなどの実効性を高める仕組みづくりが期待されます。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内では研修や会議を通じ他の事業所のスタッフと交流はあるが、他社となると代表者は同業者とのコミュニケーションやネットワークは特に設けていない。ただ、スタッフ個人では、外部研修を通じて知り合った同業他社のスタッフとの情報交換は行っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面談にてご本人の生活状況等を確認し、入居前のアセス情報等に基づき、サービスを開始しても、不明な情報が出てくる場合が多いので、その都度ご本人が安心して生活出来るよう、可能な限りケアに盛り込むよう努めている。		

自己評価	外部評価項目	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	何気ない会話を盛り込みながら話しやすい雰囲気作りに努め、ご家族等の不安や要望、本当の思いを引き出せるような関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	面談時にご本人やご家族の状況やニーズに合わせて、必要な支援を見極め、グループホームだけではなく、ご本人に合ったより良いサービスを受けられるよう他のサービスへの提案を含め柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	スタッフは入居者様と共に家事等を行う上で、お手伝いをして頂く方ではなく、家事等を共有する方として接するよう心掛けている。またレクなども入居者様に率先して取り組んで頂き、その方の得意なところを引き出すよう心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人に安心して頂き、穏やかに過ごして頂く為にも事業所だけで抱え込まず、積極にご家族とコミュニケーションをとり、出来る範囲でも構わないので協力してもらうよう努めている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	敬老会やクリスマス会などにご家族を招待し、一緒に過ごし楽しんで頂く時間を設けたり、ご自宅で生活して居た時のかかりつけ医への通院支援を行っている。	家族参加の行事を企画して家族の訪問を歓迎し、利用者の喜びを大切にしています。「家に帰りたい」という思いを尊重し、元の家への同行支援を実施しています。たとえ自宅との認識が難しい場合であっても、帰宅を望むその瞬間の思いを汲み取った関わりを継続しています。以前からのかかりつけ医などへの通院も行い、馴染みの地域や人とのつながりを支援しています。	

自己評価	外部評価項目	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様同士がトラブルにならないよう、また孤立しないよう、家事等を共有し取り組んで頂き、レク等では入居者様同士が楽しんで取り組めるよう、間を取り持つ等して上手く関わり合えるよう心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	当ホームを退居された方はお亡くなりになられた方が殆どなので関係を継続されている方は居られません。ただ、ご相談等が有りましたら、きちんと対応、支援をさせていただきます。		
<b>III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の関わり、会話等から日々の暮らしをどのようにしていきたいのか、どのような希望があるのか、可能な限りご本人の意向に添えるような暮らし作りを目指している。知り得た情報は職員間で共有し意向に添えるケアのヒントにしている。	入居後の利用者の変化や家族の希望に合わせ、柔軟な意向確認と支援を行っています。日々の関わりから利用者の思いを汲み取り、暮らしに反映させています。新聞を読みたい、将棋を指したいなど変化する思いや意向は職員間で共有し、利用者一人ひとりに寄り添う支援体制を構築しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時の面談等でこれまでの生活及びその習慣等、ご本人、ご家族から情報を得ている。可能な限りこれまでの生活習慣を維持しながらホームでの生活を継続できるよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日のホームでの生活の中で、入居者様の出来る事、出来ない事を理解し、残存機能の維持に努め、尚且つ安全に生活出来るよう工夫することを心掛けている。		

自己評価	外部評価項目	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人、ご家族の希望や普段のご様子、それらの情報からケア会議、医療連携会議等が出た意見を基に、その方の健康状態を踏まえた上で、実現可能な介護計画を作成している。	インテークに基づき介護計画を作成し、日々の生活状況に合わせてケア会議や医療連携会議で柔軟に見直しています。協力医とも議事録を通じて情報を共有し、多職種が連携した支援を展開しています。6ヶ月に1回の定期的なモニタリングを実施し、常に利用者の状態に合わせた計画の最適化を図っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録は介護ソフトに入力しスタッフは誰でも閲覧できる状態にして情報の共有を図っている。また、服薬や医療的な面でのケアの変更等が有った場合は申し送りノートのその情報を記載し、情報の共有を図っている。また、その内容を介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時のご本人の状態変化に合わせたご本人、またご家族のニーズを把握し、外部の通院支援やご家族との外出、また利用者ごとに希望の物品購入等の支援を柔軟に行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域包括支援センターで行われる催し物、町内会のお祭り、フリーマーケット、町内在住の音楽療法士さんの音楽レク等、地域で行われる催し物等に積極的に参加し、入居者様が生きがいを感じ楽しんで生活を送ることが出来るよう工夫している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	現在の病状、気になる症状を踏まえ、本人とご家族の同意のもと、適切なかかりつけ医を選び、受診を支援している。その上で問題が解決できるよう、また服薬の調整や必要なアドバイスが得られるよう支援している。	協力医による月2回の訪問診療を中心に、希望に合わせて専門医への受診もサポートしています。協力医は身体への影響を考慮し、処方薬を必要最小限に抑えるなど、負担を軽減する工夫を行っています。常に体調の変化を迅速に共有し、安心かつ安全な医療連携の維持に努めています。	

自己評価	外部評価項目	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週一回の訪問介護を受けており、日々の健康管理において、体調の変化や早期発見にスタッフと訪問看護師が協働し体調管理に努めている。急変時には24時間体制で対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、ホームのスタッフが定期的の様子を見に伺い、主治医、病棟看護師、SW、ご家族などと情報交換を行い、体の状態やご本人の様子を把握するとともに、今後の方向性を踏まえて出来るだけ早期に退院帰設が出来るよう調整対応を行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期ケアは入居時にどこまで出来るか説明を行っている。その時が来たときはご家族、医療関係者、ホームスタッフと十分に話し合いを行い、ご本人の思いに沿うようになるよう取り組んでいる。また終末期ケアに関しての研修は毎年実施している。	重度化した場合や終末期のあり方は事前に本人や家族と話し合い、同意を得た方針に基づき支援しています。状態の変化に際しては医療や家族と迅速に連携し、本人の意思に寄り添うケアを行っています。動画研修などを活用して職員の理解を深め、重度化しても最期まで安穩に過ごせる体制を整えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時の対応や事故発生時の対応については定期的に研修を行っている。事故発生時はその内容について速やかにご家族又は関係者に報告を行っている。また、救急要請が必要な場合は医療職と連携しその対応を実施している。効果測定は必ず行い、事故防止に努めている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練は勿論、災害時に業務を継続的に実施できるようにする為の総合的なシュミレーション及び備品類の在庫、その取り扱いの方法の訓練の実施を行っている。また、町内会で実施している安否確認訓練には必ず参加している。	年2回、地震や停電などを想定した避難訓練を実施しています。階段避難が必要な際は近隣住民の支援を得る協力体制を構築しており、隣接する駐車場へのスムーズな誘導手順を検証しています。火災時を想定した水消火器による訓練も行い、不測の事態に備えた防犯・防災意識の向上を図っています。	飲料水の消費期限を適切に把握するため、まずは現在の在庫状況を整理し、定期的な確認や識別管理の方法を検討するなど、着実に「見える化」を進める体制づくりが期待されます。

自己評価	外部評価項目	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	その入居者様の人格を尊重しながらその方に合った声掛けを行うよう努めている。トイレ使用時や入浴時等プライバシー保護の必要な場面では、その対応をきちんと行い尊厳の保持に努めている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮した丁寧な支援を行っています。特に排泄や入浴の際は、同性介助の実施や声かけを工夫し、自尊心を傷つけることのない安心かつ安全な介助を実践しています。利用者の立場に立った言葉選びや動作を心がけ、尊厳の保持に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者様に話しかけられた時は、その話を遮ることなく最後まで耳を傾けるよう努め、その方の思いを聞き出せるよう心掛けている。また相手の行動を否定することなく見守る姿勢を取ることが出来るよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事のペースが遅い方であっても急かすことなくその方のペースで摂って頂くよう心掛けている。また他の方が入床しても最後までリビングでテレビを観ている方でもスタッフの都合で入床を促すことなく、その方が入床したいと申し出るまでテレビを観て過ごす時間、見守っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入居者お一人お一人の好みや尊厳を尊重しながら、その方に合った身だしなみになるよう支援している。また季節や安全性に配慮した服装選びが出来るよう支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者様それぞれの状態に応じてお粥や刻み食、トロミやミキサー食等に対応している。月に1~2回、お弁当の日を設けてお寿司などを召し上がって頂いている。片付け、洗い物は入居者様が率先して取り組まれており、やりがいをもって行っている。	外部委託2社との契約により、柔軟なメニュー変更や多様な食材活用を推進しています。利用者の状態に合わせて、粥や刻み食などの形態調整を職員が行っています。寿司を食べる日の設定など利用者の好みに配慮し、希望者は準備や片付けに職員と共同で参加する機会を設けています。	

自己評価	外部評価項目	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	入居者様それぞれの状態を見極め、形状を変えるなどして提供している。食器、席の配置なども工夫している。またバランス、タイミング、量などを考慮し柔軟に支援している。食事量、飲水量も常に意識しながら食事の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	入居者様の一人ひとりの状態に合わせた方法で口腔ケアを行っている。手順が分からなくなっている入居者様には一つひとつやり方を丁寧に説明、声掛けを行うよう心掛けている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	入居者様の一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握しそれぞれに合った排泄ケアを行っている。ご自分で訴えることが出来ない入居者様には表情や態度などの僅かな変化を捉え、排泄のタイミングを逃さず排泄介助を行っている。また尊厳を傷つけないようさりげないサポートも行うよう努めている。	利用者一人ひとりの排泄リズムに合わせた丁寧なケアを実践しています。リハビリパンツの使用によるおむつ削減を推進し、全介助の利用者へも「一日一回は便座に座る」離床支援を行うなど、生活の中でのリハビリを重視した関わりによって自立を支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事にヨーグルトや大根おろしを提供し、便秘にならないよう配慮している。夜間も居室にスポーツドリンクを提供し水分補給を行い、水分不足にならないよう配慮している。また毎日のラジオ体操やお散歩等で体を動かして頂き、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	拒否等が無いよう、適切な声掛けを行い、入居者様のその時の気持ちに沿った支援を心掛けている。また入浴剤を使用し、温泉気分を味わって頂くなどして入浴が心地の良いものと感じて頂けるような環境を整えることにより気持ちよく入浴して頂くよう努めている。	週2回の入浴を通じ、利用者一人ひとりの状態に合わせた丁寧な介助を行っています。入浴剤による温泉気分の演出で「楽しむ入浴」を推進する一方、体調不良時の柔軟な対応や一人入浴時の確実な見守りなど、安全面への配慮を欠かさず実施しています。	

自己評価	外部評価項目	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中は体操、お散歩等で体を動かしたり、歌レクなどのレクに取り組んで頂いたりメリハリのある生活を送って頂き、夜間の安眠に繋げるよう心掛けている。また、就寝したくない方を無理に寝付かせようとすることなく、その方に合った睡眠パターンを理解し支援するよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者様の日々の体調の変化を把握し、主治医、訪問看護師との連携を図ることにより適切な服薬管理に繋げている。服薬ファイルを作成し、いつでも職員が閲覧できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々の生活の中で、今までの生活習慣を踏まえ個々に適した役割をケアに取り入れるようにしている。歌レクや外出など、出来る限りご本人の希望に沿うよう心掛け、楽しみに繋がるよう支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	近隣の公園へのお散歩は日常的に行っている。地域の催し物やイベントには積極的に参加している。地域包括支援センターで行われるコンサートや、頻度は少ないがドライブにて遠出も行っており、野島公園には何度も出かけており鶴岡八幡宮には初詣に出かけている。	散歩やドライブ、初詣などの季節の外出を通じて、戸外に出かけることを大切にしています。全介助の利用者への定期的な外気浴や地域の音楽イベントへの参加を推進し、一人ひとりが外の空気に触れ、季節を感じながら健やかに過ごせる環境を整えています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在ご自身で管理されている方はいないが、ご本人の要望があればご家族等に相談し、ご家族等の許可が得られれば、ご本人の充実感や安心感の為に可能な範囲でご本人がご自身でお金を所持できるような支援は可能。		

自己評価	外部評価項目	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族に了承して頂き、職員が介入しながらご本人の要望時に電話が出来る体制を整えている。ご家族と定期的に電話連絡を希望される入居者様はご家族と相談の上、定期的に電話連絡が行えるよう支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	写真や花、季節に応じた飾りつけなどをリビングに施し、生活に暖かさを出すよう工夫しており、居心地の良い空間作りを心掛けている。居室とリビングに温度湿度計を設置し、管理を行い快適に過ごせるよう気を配っている。	行事や装飾を通じて季節を楽しみ、音や光、湿度に配慮して快適な環境で過ごせるよう整えています。玄関には誕生日の利用者の写真と職員の手書きメッセージを掲示し、家族と共に成長や喜びを分かち合えるアットホームな雰囲気づくりを大切にしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにはソファを置き、ゆったりとテレビを観たり、談話出来る空間作りを行っている。テーブルの配置等は入居者様同士の関係性や性格に配慮し、ストレスが無いよう工夫している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの物、慣れ親しんだ物を、居室内に置くことにより、落ち着いて安心して過ごして頂くようにしている。また室内のレイアウトもご本人、ご家族で行って頂き、ご本人が落ち着いて過ごすことが出来る空間を作って頂くよう助言している。	危険物を除き、思い出の品や仏壇など、慣れ親しんだ物を自由に置ける「自分だけの空間」を大切にしています。家族の宿泊も可能で、専用の折りたたみベッドを完備しています。利用者と家族が事業所にいながら家庭の延長のように過ごせる環境を整えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご自身の居室にはご自身が分かるような表札を張り、迷わないよう工夫している。トイレにも大きな表札を張り、誰でもわかるように工夫している。またトイレの灯りは夜間点けたままの状態にして、安全にトイレを利用して頂けるよう心掛けている。		

2025年度

事業所名 グループホームソラスト富岡  
 作成日： R8年 4月20日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	項外部 1 評価 0 価	既存の業務マニュアルを現状に即した内容に更新されていない。	現在の業務マニュアルを現状に即したものに更新していく。	年に1回の定期的な見直し、手順等の確認を行う。またその記録を残すなどして実効性を高めていく。	10ヶ月
2	項外部 1 評価 6 価	飲料水等の保存収納の仕方。消費期限を確認し辛い。	飲料水の消費期限を適切に把握できるようにする。	飲料水の在庫状況を整理し定期的な確認や識別管理の方法を検討する。「見やすい整理管理方法」を検討、実行する。	10ヶ月